

1 New school building

Ask about your experiences

宗像市立大島学園の実例から義務教育学校の成果を学ぶ



大島学園は平成18年度に宗像市で初の施設一体型の小中一貫教育校として開校後、平成30年4月に県内2番目となる義務教育学校「宗像市立大島学園」として誕生しました。義務教育学校にしたことで、教科担任制や異学年交流、地域と連携した授業など教育の幅が広がりました。例えば、運動会の応援指導などでは、異学年交流で子どもたちの人間関係の幅が広がります。また、地域と連携した行事は、地元のお年寄りのかたを招いての敬老会や家庭科の授業で制作したオリジナルの法被を着て参加する大島山笠など、人と関わる力や郷土愛などを育てています。小中学校制だとなかなか実現できない授業が、義務教育学校ではできる。1人の校長、1つの教育目標など一本化することで質の向上や高度な教育が実践できているのではないかと感じます。

宗像市立大島学園 Profile

西島 潔 校長

平成28年、宗像市立城山中学校の教頭に就任。平成31年、宗像市立大島学園副校長を経て、令和2年から宗像市立大島学園校長に就任。教師生活28年、座右の銘は「幸せは、準備された心に訪れる」

3 Learning area introduction

まず不登校などの原因となる「中1ギャップ」の解消や「タテの関係」の強化、小・中学校の枠を超えた授業の実施が可能になります。また、校舎が同じ利点を生かした異学年交流も積極的に進めることができるため、児童・生徒らの人間関係の広がりや上級生のリーダーシップの醸成と、その発揮が期待されています。

このように、校長や教職員、教育方針など、さまざまなことが一本化し、9年間で「1つの義務教育」として捉えることでより質の高い教育を目指す学校の在り方を導入した金田義務教育学校は今後、福智町の将来への可能性を秘めた教育モデルとして時を刻んでいきます。

金田義務教育学校 DATA

施設概要



所在地 ▶ 福智町金田 1283 番地
 電話番号 ▶ 0947-22-9007
 敷地面積 ▶ 52145.57㎡
 校舎 ▶ 鉄筋コンクリート造3階建て
 体育館・プール
 ▶ 鉄筋コンクリート造平屋建て
 延床面積 ▶ 15916.57㎡
 事業費総額 ▶ 53億円(予定)



↑旧小中学校の校章を組み合わせ、桜が咲く学び舎でしっかりと学び、社会に羽ばたいてほしいという願いを込めてこの校章に決まりました。

校訓
 勤正真実
 労義実



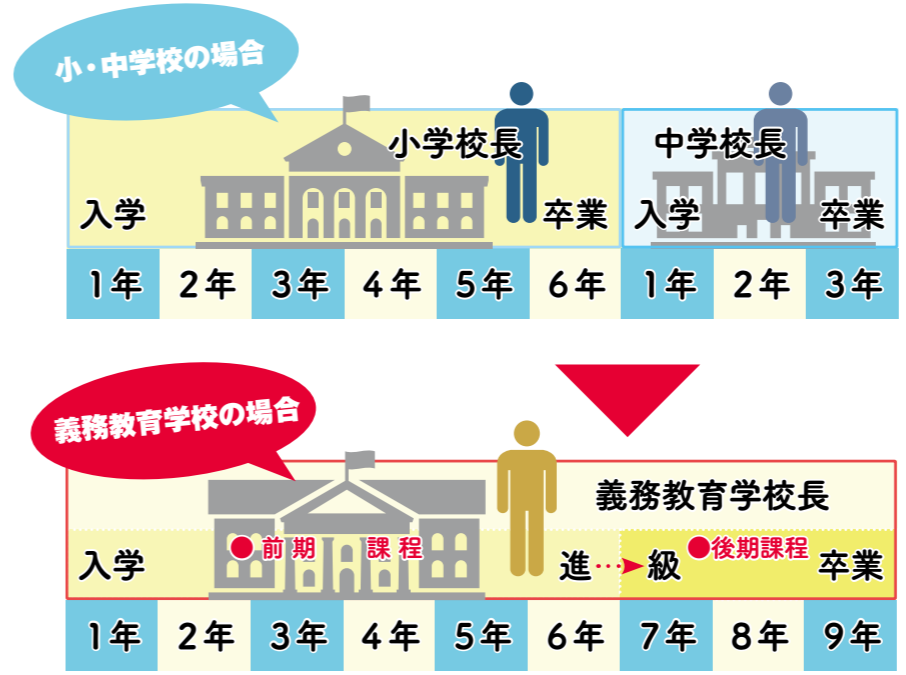
新しくきれいになった教室に「はいっ」という元気な声が響き渡る。

国内で先駆的な義務教育学校新形態で柔軟な教育を目指す

これまでの「小学校、中学校」から「義務教育学校」と呼ばれる学校種で舵を切った金田義務教育学校。そもそも、義務教育学校とは、平成28年施行の「改正学校教育法」で設置可能となった新たな学校種で、小学校、中学校と並ぶ3つ目の学校形態を指します。全国では令和2年5月1日現在で126校、福岡県内では4校が義務教育学校として開校しています。

では、小・中学校と義務教育学校とは何が違うのでしょうか。その最大の相違点は、一人の校長のもと、一つの教職員集団が9年間を通して同じ「教育方針」と「教育目標」を

● 小・中学校と義務教育学校の教育制度のイメージ



見据え、全教職員が共通理解の上で教育ができるという点です。これまでの小学校6年間で「前期課程」、中学校3年間で「後期課程」と区分しながらも、学校や地域の実態に応じて、今までもさらに柔軟な教育活動を実施することができました。

利点を生かした無限の可能性 未来の町教育モデル本格始動

義務教育学校の持つ利点を生かし、国内では新たな独自教科を作成したり、「4年-5年制」や「4年-3年-2年制」など「6年-3年制」にとられない区切りの学校もあります。このように、柔軟な教育を行える「義務教育学校」が持つ可能性は幅広く、新たな環境に馴染

Pursuing a new way of school
 2 Compulsory Education School

教育の幅広げる 新制度の可能性

そもそも 義務教育学校 とは何か。



「改正学校教育法」で新たに誕生した学校種「義務教育学校」。小・中学校教育との違いや、義務教育学校が広げる可能性など、「金田義務教育学校」の根幹である新たな教育制度に迫ります。